

東雲夢通信

東雲中学校校長室通信

文責 校長 渡邊 和彦

平成三十年十二月二十一日発行第十五号

学校生活アンケートから良かったこと

授業の中で、自分の思いや考えを仲間にも伝えることができるようになりました。学級やグループで課題の解決に向けて、取り組めるようになりました。地域で行われた行事に参加することができ、学ぶこともたくさんありました。友だちと話をせずに、集中して掃除に取り組む事もできました。

以上は全校生徒に行ったアンケートで、一学期より成績が上がったものです。授業の中でも地域の方々とも、作業や授業やいろいろな場面を通じ繋がったこと、学んだことがあったのだなと、理解できます。



和楽器教室の様子



租税教室 池田君と一億円？

学校生活アンケートから残念だった事

授業内容の復習や宿題がおろそかになりつつある。(残念!) 学校であったことを、お家の人と話す機会が、少し減った!(残念!) 規則正しい、生活に気をつけることができなくなりつつある!(大残念!!!)

最後の、「規則正しい生活」ですけど、先生達で分析してみました。確かにかなり、一学期に比較して、悪い方向へいっています。学年ごとに分析すると、二年生、三年生が主に原因を作っているようです。三年生は受験勉強の影響もあるでしょうね。それは仕方ない。だけど、いろいろな方面から、情報を集めると、ゲーム、スマホ、SNS...出てきます。

午後9時から朝7時まででは、やめましょう!(※やめなさい! やめろ!)

お家の方へ

二学期も、なんとか大過なく子どもたちと過ごさすことができました。ありがたうございました。皆様のおかげです。冬休みということで、お子様をご家庭にお返しすることになります。どうか、生活習慣の見直しを、よろしくお願い致します。

特に、インターネットに接続可能な、各種機器(ゲーム、スマホ、パソコン等)の使用時間、使用状況、アプリ、サイトの内容、どのようなSNSにアクセスしているか...等

残念なことに、佐伯市内の中学校では、本年度すでに数件、上記のようなことを発端として、事件が起こり、罪に問われた事案が発生しております。本校にとつて「対岸の火事」ではありません。「他山の石」にしなくてはいけないのです。

どうか子どもさんに「毅然とした態度」で接してください。保護者が買いた、与えた、ゲーム、スマホ、パソコンです。子どもたちが依存症になる前に、私たち大人が「毅然とした態度」でもつて、子ども達の「生活習慣」を守ってあげなければと思います。もちろん、学校での指導も積極的にまいります。ご協力をよろしくお願い致します。

良い時代だった

高校二年生、家に始めて電話が来ました。黒電話です。受話器の送話口の中には芳香剤が入っていました。電話にはパッチワークとおぼしきカバーが掛かっていました。恋をした相手に電話で告白しようかと決意するのですが、いつも電話の前には、恐ろしい父親がいます。父親のいない隙を狙って、かけるのですが、相手の女の子の(そういうときに限って)父親が野太い声で「もしもし!」と応え、恐怖に怯えて電話を切るのです。そんな事を、繰り返していた昭和五五年。

